

令和5年度不燃ごみの内容物調査結果

1 目的

不燃ごみの内容物調査を実施し、不燃ごみの中に資源がどの程度混入しているかを調査する。調査結果を踏まえ、広報等で啓発する。

また、火災の原因となる発火性危険物や小型充電式電池、水銀使用廃製品等の排出の状況もあわせて調査した。

2 方法

各ステーションからすべての不燃物を収集。清掃センターに持ち帰り計量。内容物を調査し、それぞれの資源の量を計量。

<調査日>

6月7日(水)、14日(水)

<収集場所>

市内某4地区(A・B・C・D)

<調査対象資源>

アルミ缶、スチール缶、その他缶類、紙類、布類、ペットボトル、トレイ類等、茶色びん、無色びん、その他色びん、スプレー缶、カセットボンベ、使い捨てライター、小型家電、乾電池、水銀使用廃製品、小型充電式電池

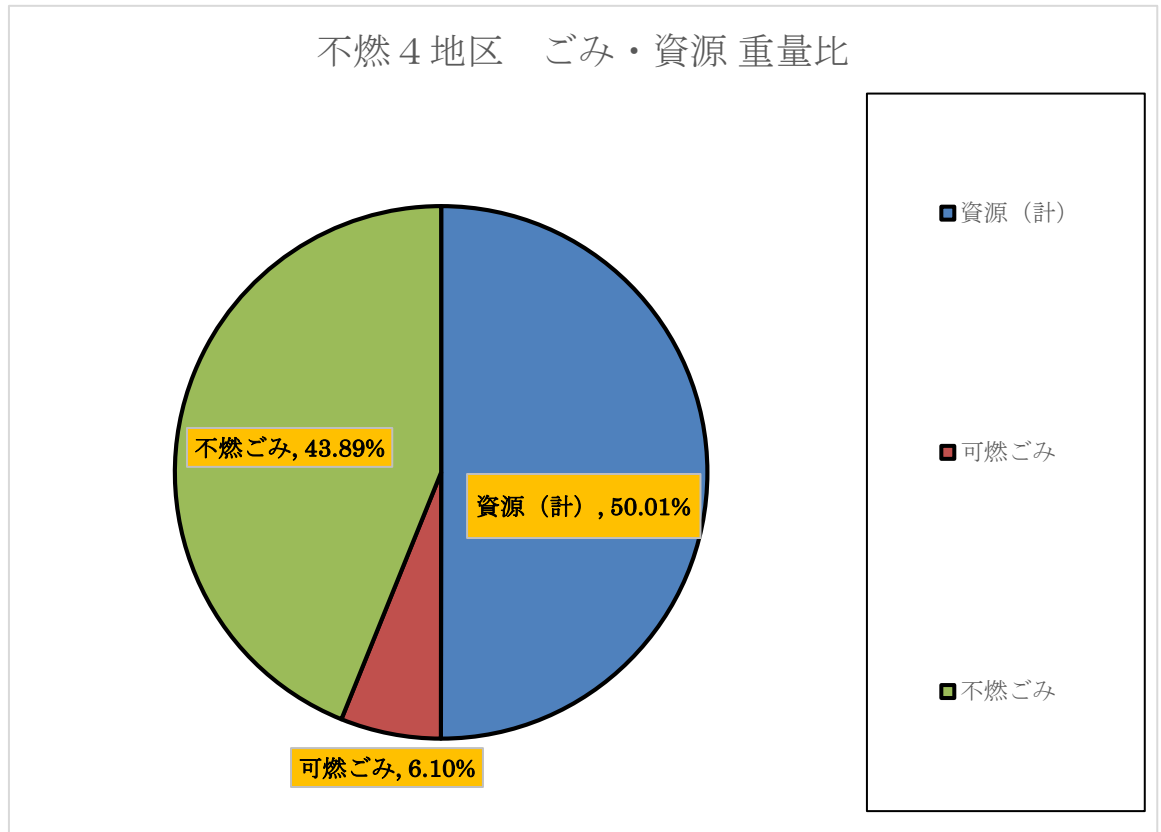
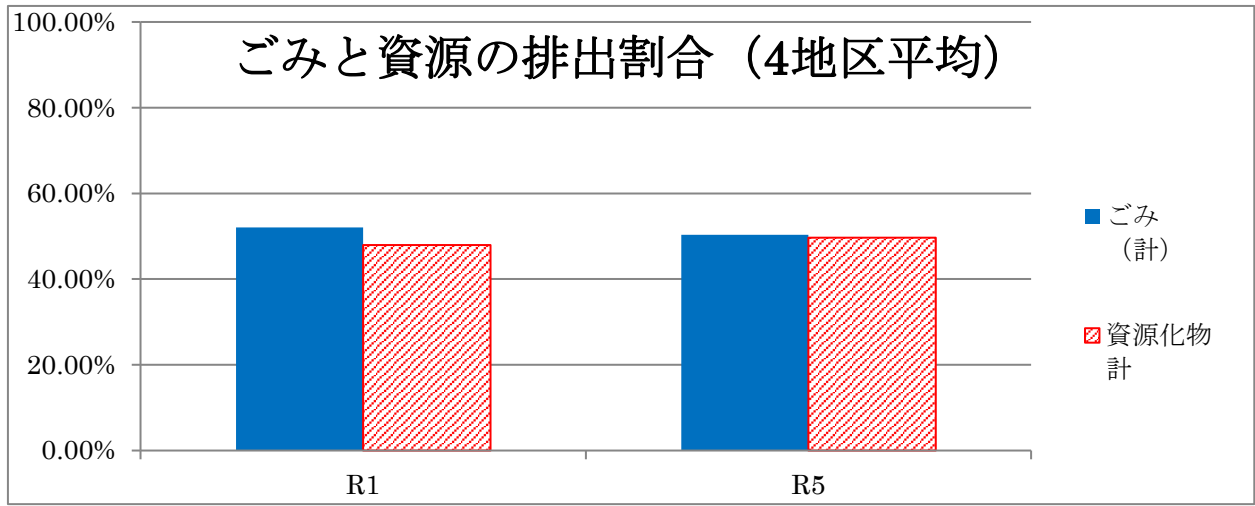
3 結果

(1) 年度比較及び全体の分析

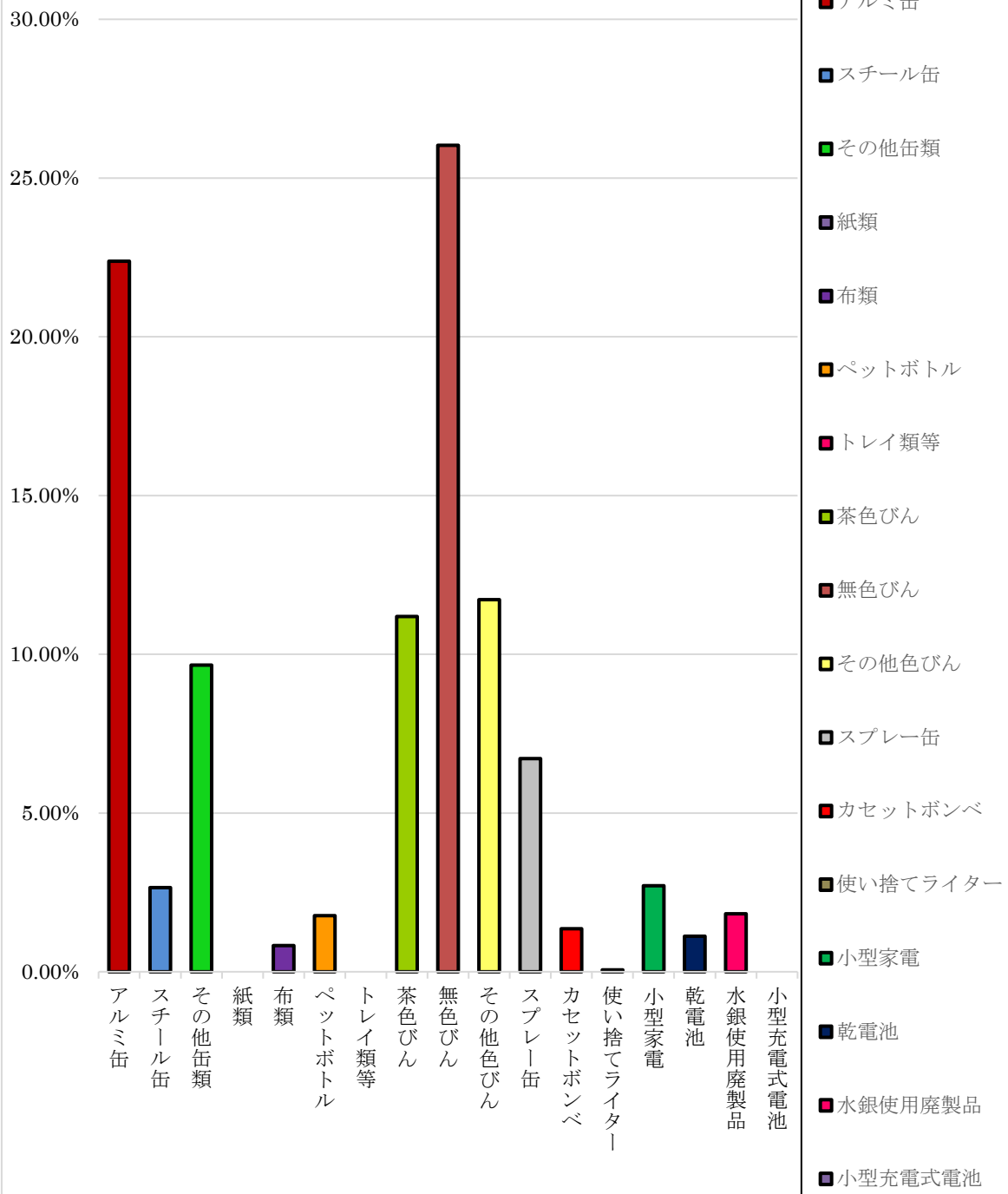
ごみ袋に入っていたごみを調査したところ、重量全体の約50%が資源であった。資源の中で最も多かったのは、びん類であり、次いで缶類が多く、資源の大半を占めていた。

小型家電や乾電池の混入は、比較的低い割合となっている。

また、前回同時期(令和元年度)の調査と比べると、資源の排出割合は約2%増加した。

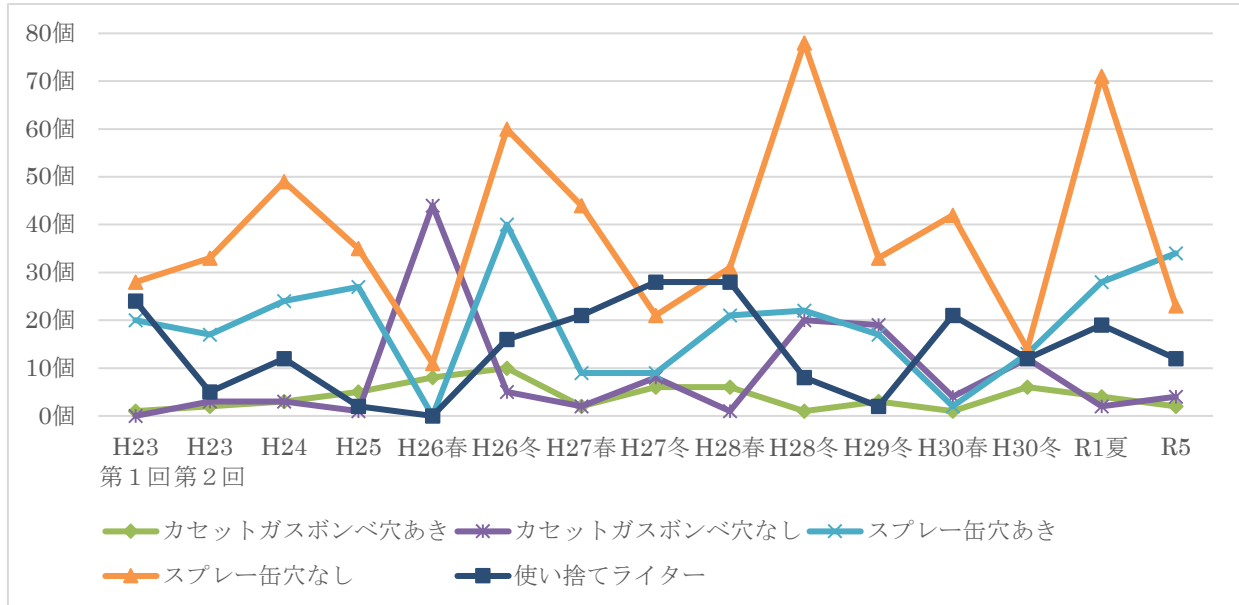


不燃4地区 資源の内訳



(2) 発火性危険物の排出

今回の調査では、前回同時期の調査に比べて、全体的に発火性危険物の排出割合は減少した。発火性危険物の種類で最も多かったのは、スプレー缶類であり、穴なしの混入は減少した。



(3) 小型充電式電池の排出

今回の調査では、4地区いずれも小型充電式電池は混入していなかった。

(4) 水銀使用廃製品の排出

今回の調査では、調査対象ごみ袋 102 袋中 6 袋に混入があり、排出されていた水銀使用廃製品の種類はいずれも蛍光管であった。

各地区の排出状況

・ A地区



・ B地区



各地区の排出状況

・ C地区



・ D地区

